

まつやまじょうにのまるしきでいん

松山城二之丸 史跡庭園

地図
P13D3

城主の暮らしぶりが想像できる

松山城主の邸宅の間取りを発掘調査し、古絵図をもとに植栽や流水を使って再現。表御殿跡で見つかった大井戸の遺構は露出展示しているため、そのまま見ることができる。また、大井戸から発見されたロシア金貨に日露戦争当時のロシア兵男性捕虜と日本人女性看護師と思われる名前が彫られており、この金貨は国境を越えたラブロマンスの証と考えられた。こうしたことから「恋人の聖地」に認定されている。



DATA ④松山市丸之内5
①089-921-2000
②電停県庁前から徒歩5分
③9時～17時(季節により変動。入園は営業終了30分前まで。)
④12月第3水曜日 ⑤あり

しのめじんじや

東雲神社

お能と関係ある
藩ゆかりの神社

地図
P12E3

徳川家康の異父同母弟、松山藩祖松平定勝をまつ。境内には市指定天然記念物の通称ナンジャモンジャの木や内藤鳴雪の句碑「東雲のほがらほがらと初桜」等がある。松山藩にすぎたものと言われた能道具を多数所蔵して、愛媛県の有形文化財に指定されている。

DATA ④松山市丸之内
①089-921-8938
②電停大街道から徒歩8分



小説の舞台、ゆかりの地が多数点在する

松山城周辺 センターゾーン

主人公たちが産声をあげた城下町松山の中心地。松山市のシンボル松山城を背に主人公たちの生家跡や遊び場所、学校跡などが点在。汽笛を響かせながら坊っちゃん列車が走り、情緒ある県都として賑わっています。各サブセンターゾーンへもここからスタート。

(注) 開館日時は、イベント開催や祝日等により変更される場合がありますので、各施設までお問い合わせください。なお、料金につきましても同様にお問い合わせください。



さかのうえのくもみゆーじあむ

坂の上の雲 ミュージアム

小説の世界と明治の
日本を知る

地図
P13D4

小説の世界と明治の日本をテーマに、映像や展示物でわかりやすく紹介。まちづくりの情報発信基地でもある。コンクリートのうちっばなしに三角形のユニークな形状が特徴。(P10-11 参照)

ばんすいそう

萬翠荘

お殿様の子孫が建てた必見の近代洋風建築

大正11年(1922)、久松家第15代当主久松定謨(ひさまつさだこと)が別邸として建てた洋館。当時の松山の最高の社交場だった。小説にも登場する定謨は陸軍武官としてフランスに駐在したことから同地の建築様式をとり入れた。設計は東京帝大出身で松山の実業家・新田長次郎の女婿になった木子七郎(きごしろう)。敷地内には漱石ゆかりの愛松亭跡碑や書簡碑がある。2011年11月29日に国の重要文化財に指定された。

DATA ④松山市一番町3-3-7 ①089-921-3711 ②電停大街道から徒歩3分
③9時～18時 ④月曜(祝日の場合は開館) ⑤あり



地図
P13D4

にのまるたきぎのう

二之丸薪能

松山の伝統芸能

能楽は、松山では藩主の庇護のもと盛んに行われ、今日まで受け継がれてきた伝統芸能。松山城二之丸史跡庭園で、かがり火に照らされた松山城の石垣を背景に舞囃子、狂言、能を鑑賞できる。



かんぱつとるよん!

松山観光
ボランティアガイド

松山観光ボランティアガイドの会のメンバーが長者ヶ平に常駐。観光客などに松山城の見どころをガイドします。

予約先
松山観光ボランティアガイドの会事務局
089-935-5711



おおかいどう

大街道

地図
P12E4-5

小説に登場する江戸時代からの繁華街

小説の中で何度も登場する大街道は、松山最大の繁華街。一番町と千舟町通りにかけて全長472mのアーケードのある商店街には、等間隔に樹木もあり、華やかと潤いがある。



ほりのうち(さんのまるあと)

堀之内(三之丸跡)

先人たちによって
守られた城壕

地図
P13C4

松山城三之丸の堀は、戦後間もない昭和23年に、進駐軍から埋め立て命令が出されましたが、多くの方々の反対運動により守られました。現在、堀之内東口には堀の保存に関わった先人たちの功績を後世に伝えるため、解説板を設置しています。

DATA ④松山市堀之内 ①089-948-6854 (松山市公園緑地課) ②電停南堀端からすぐ

まつやまじょう

松山城

地図
P13D3

街の真ん中にそびえる
松山人の心のふるさと

松山城初代城主・加藤嘉明(かとうよしあき)が、慶長7年(1602)から約四半世紀の歳月を費やして築いた名城。天守は132mの勝山の山頂にそびえ、門や櫓など国指定重要文化財が多数。土・日曜・祝日朝9時には開門登城太鼓が打ちならされる。松山平野を360度見渡せる天守からの眺望は、まさに絶景。

DATA ④松山市丸之内1 ①089-921-4873
②電停大街道からロープウェイ東雲口駅舎まで徒歩5分
③9～17時(季節により変動。入場は、営業終了30分前まで。)
④12月第3水曜日(天守のみ) ⑤有料



街角のお宝

ここも
見逃さない

えひめけんちよう
愛媛県庁

萬翠荘を設計した木子七郎の作品。昭和4年建築。翼のよつばに広がる左右対称の構え。威厳をたたえ格調の高いフォルムが美しい。令和3年2月に国登録有形文化財に登録された。平日9:17時に無料見学可要予約。

地図
P13D4

まつやまほへいだいじょうにれんたいじょう
松山歩兵第二十二連隊跡碑

松山歩兵第二十二連隊のあった堀之内にある。そはに日露戦争を描いた「肉弾」の作家・桜井忠温の「最も愛情あるものは最も勇敢なりの碑も」。

地図
P13C3

かわひがしへんせいのくひ
河東碧梧桐の句碑(市役所前)

市役所前の堀端にある句碑。季節や定型にこだわらない碧梧桐の句である。碑の文字も彼独自の書体。

地図
P13D4

たかはまきよしのくひ
高浜虚子の句碑(東雲神社)

東雲神社にある虚子の句碑。自宅を出て道後の方を眺めると山にぼつかり冬の日が当たっており、何か頼りになるものがあつたと語っている。

地図
P12E3

たかはまきよしのくひ
高浜虚子住居跡

子規の後輩であった虚子が、明治14年(1881)から京都の第三高等学校入学まで暮らした。明治24年(1891)には帰省中の子規が虚子宅を訪ね、句会を開いている。

地図
P12E4

くたつあんと
愚陀佛庵跡

漱石の下宿先は一番町にあった上野家の離れだった。愚陀佛庵と名付けられ、子規が同居したことで知られる。

地図
P13D4

かわのせいでいじょうあんと
河東静深住居跡(碧梧桐生誕地)

河東静深は俳人碧梧桐の父である。静深は藩校明教館の教授を務めた人物で、廃藩後ここに千舟学舎を開いた。小説では、子規が静深を訪ねて漢学や漢詩文を教わったことが記されている。

地図
P13D5

おほはらかんせんじょうきよあんと
大原観山住居跡

子規の母・八重の父で藩校明教館の教授を務めた松山第二の学者。三男は加藤拓川。子規は小学校にあがるまで、この祖父に漢文の素読を教わった。

地図
P13D5

だいにじゅうにくりぎんぎんどうあんと
第五十二国立銀行跡

第五十二国立銀行(現・伊予銀行の前身)は、明治11年に誕生。旧松山藩士の小林信近が初代頭取となり、正岡子規の叔父大原恒徳も設立に大きく関与して、支配人を務めた。恒徳は子規の後見人で、子規が頼りにした相談相手だった。

地図
P13D4

きざりよかんあんと
きざりよかんあんと

明治28年(1895)、夏目漱石が松山中学に赴任した時、初めて泊まった宿として知られる。「坊っちゃん」の中、山小屋の主人。真が子規を見舞おうと奥から松山に帰る泊まった宿でもある。

地図
P12E5

はししほとくしやうかんあんと
俳誌「ほととぎす」創刊の地

俳句雑誌「ほととぎす」は、明治30年(1897)、子規の友人の柳原極堂によって創刊された。俳句革新をバックアップし、20号まで発行した。のちに高浜虚子が跡を継いだ。

地図
P13D3

は小説ゆかりの地を解説板があるもの